

厚生福祉


 時事通信社

104-8178 東京都中央区銀座5-15-8 時事通信社
 昭和28年5月30日 第3種郵便物認可
 毎週2回火・金曜日発行(但し祝日を除く)
 購読料金 月額税込4,300円
 本誌掲載記事・写真などの無断複写、複製、転載を禁じます。
 ©時事通信社2012
 ◎誌面内容に関するお問い合わせ(編集部)
 kousei-dokusha@jiiji.com

目次

インタビュー 小児脳死移植 植田育也・ 静岡県立こども病院小児集中治療センター 長 重症小児救急、集約化を……………	2
国民年金事務費の必要額確保を 概算要求 決定で厚労省に要請—総務省……………	5
自立に必要なサービス把握 介護予防策を 強化—厚労省……………	6
事件・事故・裁判……………	7
中央省庁ニュース……………	8
里親の手引、事例集作成へほか	
進言(香川県)……………	9
特集 特定看護師 活動現場レポート①…	10
学会・医療情報……………	11
温室ガス「50年80%減」へ行程表 来年度 から検討着手—環境省……………	12
9割が原発ゼロ支持……………	12
調査・統計のページ……………	13
社説拝見 8月前期……………	14
短信……………	17
ニュースフラッシュ……………	18
【福祉・健康】介護施設の食料備蓄義務化 へほか【医療・保健】ドクターカー実証研 究を開始 ほか【環境・ゴミ】計画停電時で 全国初の復旧協定 ほか	
スコープ……………	20

スイス「看取りの家」から学ぶ

慶応義塾大学
 医学部客員教授
 ・岩尾 一郎



医療の進歩に伴い終末期問題に突き当たるのは先進国の宿命だろう。不治かつ末期で回復の見込みがなく、尊厳ある死を望む場合、ベネルクス3国、スイス、およびアメリカのオレゴン州とワシントン州では、医師の処方する薬剤等で人為的に寿命を縮めることが法律で認められている。自国民にのみ適用されるが、スイスでは厳格なルールのもと、外国人を例外的に受け入れている。

チューリッヒ郊外にある「看取りの家」を訪ねた。DIGNITASという終末期患者を世話する組織が運営しているが、看板は出ていない。敷地は700坪ほど、2階建ての、1〜2家族が過ごせる程度の建物だ。利用者は大半が末期がんで、ここに5日滞在し、遺骨となって帰国する。利用にはDIGNITASの会員となる必要だ。会員登録の後、自死を希望する4か月前までに自分の状態、意思を記載し、カルテも含めた詳細な報告を送る。本部では、スイス法に照らして問題がないか、それらを注意深く調べる。それがクリアされると本人に連絡が行く。時期が来て、本人、および家族がスイスに到着すると、組織のメンバーが付き添い「看取りの家」に入る。

2日目、近郊の医師が法に基づき末期状態かを診察し、本人意思を確認する。3日目は自身の内省の日にあて、4日目、再び医師の面接。患者の意思に変更がないと確認できれば、強力な鎮静剤が処方される。この薬は使用されない場合、すぐに返却しなければならない。5日目にメンバーが見守る中、自身で服薬し、1時間程度で死亡する。死亡後、確認のため警察、検視官が呼ばれる。自殺と判定されると、遺体はメンバーの手で安置所に運ばれ、火葬の準備にかかる。以上の登録費、事務費と医療費を含め、全体の経費は約1万2000スイスフラン、100万円くらいだ。

DIGNITASによれば、年間150人くらいを看取っており、多くはイギリスやドイツからの患者。日本人の問い合わせが数件あったが、実施に至った者はいないという。スイス法をクリアできる医療記録を作成するのは大変であろう。それ以上に、異国に来て命を絶つより、住み慣れたところで皆に看取られ臨終を迎えるほうが、はるかに実りがある。この施設に来て思った。